

大分県立武道スポーツセンター 将来ビジョンについて

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

- ①県民スポーツを支える環境づくりを推進するための、県内で最も競技場面積が広い多目的競技場や3つの武道場を有する、屋内スポーツの拠点である。
- ②大分県広域防災拠点基本計画に基づき、大規模災害により広域防災拠点が設置された場合は、広域搬送拠点臨時医療施設として機能しなければならない。

目指すべき施設像

- ①県民の誰もが気軽に利用でき、大規模大会も開催可能な武道をはじめとする屋内スポーツの拠点
- ②トップリーグ公式戦や各国代表の合宿開催によるスポーツ観光の拠点
- ③大規模災害に備えた広域防災拠点の中核施設

目指すべき利用者像

- ①屋内スポーツの競技者・愛好者や健康づくりに取り組む県民
- ②トップリーグ選手、観客

定量的目標達成指標

- ①年間利用者数の増 (過去3年平均：165,062人/年)
241,000人/年 (参考R1実績：208,521人/年)
- ②利用満足度の維持 (過去3年平均：82.9%)
83.0%

定性的目標達成指標

- ①利用者拡大のため、芸術文化スポーツ振興課や指定管理者等と連携し、大規模イベントや合宿の誘致に取り組む。
- ②利用者満足度向上のため、利用者からの意見を参考にした対策を実施する。

主な課題と解決策

【課題】

- ①人口減少・少子高齢化に伴う施設利用者の減少が懸念される。
- ②多様な利用目的に応じた、適切な施設管理が求められる。

【解決策】

- ①県、市町村や競技団体が行うスポーツ事業への協力や自主事業により、子供から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした事業を充実させ、生涯にわたってスポーツに親しむ環境を整備する。
(県民スポーツ大会、県民すこやかスポーツ祭、指定管理者が行う各種教室 等)
あわせて、文化行事などスポーツ以外の行事への利用を促進するとともに、利用者の拡大に向けた広報を強化する。
- ②大規模大会の開催から一般の県民利用など、利用目的に応じた機能を発揮するため、定期的な施設点検を行うとともに、利用者目線に立った施設管理を行う。